

440.5
Ih-1

1 127.33-1

No. 2081

第 二 號

i 33-1

定稅
遞送
免許



東京不忍池畔

櫻南社

藥物學部

每月六回發兌
明治十年五月十五日刊行



富士川文庫
894

F 2
イ-103

緒言

我國近世醫學一變シ漢ヲ去テ洋ニ就ク是ニ於テカ
 西洋諸家ノ新著陸續舶輸スルモノ枚舉スルニ遑ア
 ラス且遠ク海外ノ教師ヲ延キ其學術ヲ親炙研究ス
 登ニ開明ノ鴻澤ナラスヤ然ト雖モ其地僻遠或ハ都
 下ニ開明ノドモ事業多端ノモノ又貧困ニシテ學費ニ
 乏キ者皆遺憾ナキト能ハズ因テ今西洋現在諸大家
 ノ說ヲ纂輯譯述シ最モ簡明切當ノモノヲ采リ之ニ
 加ルニ皇國支那ノ說ヲ以テ凡實學ニ裨益アルモノ
 舉テ遺ネトナシ然ラバ則チ僻邑大都學ニ志ス者一
 タビ此書ヲ繙カバ殆ド遺憾ナカルベシ先ヅ藥劑學
 ヨリ始メ訓點ヲ加ヘ發兌シテ世ニ問フ諸學科ノ如
 キ追次印刷スベシ此書管ニ醫家ニ便ナルノミニ非
 ズ藥舖ヲ業トスルモノモ一讀シテ有益尠ナカラズ
 若シ校正錯誤アラバ讀者請フコレヲ訂正セシメ
 櫻南社長識



醫範新說

第二號

藥物學部

麻醉劑

以下阿片專主メ方劑ヲ示ス

(一) 阿片越幾斯

阿片

右水ニ調シ溶化シメ瀝シテ渣ヲ去リ重湯ニ
 煎熬シ乾涸スルヲ待テ搗羅末トナス色褐ナ
 リ興奮チ主トスルニハ六分氏ノ一厘六毛強

〔二〕吐根阿片散

乃至一匁ヲ一度ノ量トス一日ニ三回ヲ與フ
催睡チ主トスルニハ一匁乃至二匁チ一度ノ
量トス一日ニ三回ヲ與フ一日ニ七匁用ユル
片ハ定量ニ過ル故ニ方チ疏開ルニシテ記ス
一名トウフルサン
硫酸加里 八匁 阿片 吐根 各一匁
右淨末ト爲シ冷水ニテ咽下ス
硫酸加里ハ後便ノ寡多ニ隨テ増減シ或ハ去
トモ妨ナシ

〔三〕單阿片丁幾

下利チ止ルニハ半劑或ハ一劑チ臨臥ニ頓服
ベシ
老痰化セズ膠塞シ咯テ出ザル者ニ宜シ
阿片一分 酒精十分
右壘ノ内ニ浸テ口チ封固シ大陽ニ晒シ溶消
テ渣チ去ル滴量チ用ユトベシハ十五滴中一
匁チ含ムアルコイルノ性ハカロキ故ナリ往
日ハ小兒呼吸器病及ビ腸管病下利ニ年齡ニ

憑よチ懸念けんねんシテ多量たりょうチ用ヒザリシガ現今いまハ然しか
ラズ

小兒こども下利くだり六ヶ月未滿むつきまへノ者ものニハ一滴いつてき六ヶ月以

上じやうノ者ものニハ一二滴しちにどチ一度いちどノ量りやうトス一日いちにちニ三

回かいチ與あフ

咳嗽せきチ止ムルニハ六ヶ月未滿むつきまへノ者ものニハ一滴いつてき

六分むつぶんノ一六ヶ月以上いちむつきまへ一歳いっさいマデハ四牙よつばノ一いちチ

一度いちどノ量りやうトス一日いちにちニ三回さんかいチ與あフ餘あまハコレニ

準まス

裏急うらきゆう後重ごぢゆうシ腸ちやうノ蠕動じゆうどう機剛ききやう強きやうシテ甚はなはだシシ穀道こくどう

ニ努責にきふル者ものニハ一度いちどニ二滴にてき乃至いた五滴ごてきチ一弓いちきゆう

一弓いちきゆうナリハ八ノ粘液ねんじやく漿じやうニ調和てうわシ灌腸くわんちやうスルトキハ

腸ちやうノ攣急れんきゆうチ止ム若もシ多量たりやうヲ用ユレバ反へテ裏うら

急きゆうチ増まス

細帶水さいたいすい或あるハ點眼水てんげんすいニ調加てうかスルハ痛止いたみをとめるヲ主まニ

スルニ非あらズ其配合そのあはせスル所ところノ藥力くすりヲ佐たすルナリ

故ゆゑニ收斂しゆれん藥やくニ配あはスレハ初メハ收斂しゆれんテ後のちニ

兼あテ痛いたヲ止とどムル効きうヲ存ぞんス

用量一一滴乃至十滴一度二十五滴ヲ極量トス
 故ニ方ヲ疏閱ルニシテ一日ニ三回極量
 四十五滴ノヲ記ス

〔四〕

桂枝 泊芙蓉 十六分 阿片 丁香 一名舍電華謨阿芙蓉
 又ラウタニユム

泊芙蓉 十六分 阿片 丁香 桂枝 各一分

設里酒 百五十二分

右丁幾法常ノ如シ

効用ハ單阿片丁幾ニ畧同シ

〔五〕

安息阿片丁幾方

阿片 一分 安息酸 四分 龍腦 二分

茴香油 二分 酒精 百九十二分

右丁幾法常ノ如シ

此方ハ麻酔ヲ主トシズ衝動興奮ルヲ主トス

阿片ハ二百分ノ一ヲ含ムノミ故ニラウタニ

ユムニ比ブレバ効力二十倍弱シ色薄クシテ

黃褐色不透明ノ液ナリ

大人及ビ小兒呼吸器諸疾ニテ痰飲咽膈ヲ堵

塞シ咳シテ應ズ略テ出ザル者又咳嗽甚シキ

者等ヲ導滌ス

用量小兒ニハ十滴乃至二十滴大人ニハ一茶

匙チ一ホ又ハ二茶匙チ一度ノ量トス一日ニ

三回チ與フ

〔六〕

阿片水方

阿片粗末一分 淨水十分

右調和シ蒸餾シ藥液五分ヲ取ル此液ハ無色

透明ニシテ微ク阿片ノ臭氣ヲモツ往昔ハ點

眼水ト爲ス近時ハ更ニ用ヒズ

〔七〕

阿片舍利別方

阿片ニキス一分 單舍利別 一千分

右調和ス

効用ハ前條ニ附テ參考ヘシ

〔八〕

齒痛丸方

阿片越幾斯 莖碧越幾斯 非沃斯ニキス

ヒレトリ根 丁香 各等分

右丸トナスコレハ往昔ヨリ傳ル處ノ方ナレ

トモ漠然トシテ君佐ノ別ナク單ニ麻酔藥ヲ

和合スルノミ故ニ主治辨明シ難シ

附録

〔皇國名〕 ケシノヤニ クシノシル

〔支那名〕 阿片 通名 霞片 鴉片

○ケシ

豐粟 通名 囊子粟 米囊花 鶯粟

○皇國支那豐粟ノ種子ナマクハ陰曆ノアキ八月望

ト九月九日トチ以テス種ヲ持シ兩手ヲ重疊交換

シ種ヲ撒シ再ビ竹箒ヲ以テ掃キ勻ナラシム未ダ

種ヲ下ザルマヘ地ヲ糞シノチ釜底ノ烟煤ヲ以テ

拌撒シ細泥ヲ用テ之ヲ蓋フトキハ蟻ノ食コトナ

免ルベシ苗ノ放芽ヲ待テ始テ清糞ヲ澆ギ其繁密

モノヲ芟ル葉ハ薊ニ似テ刺ナク白色ヲ帶ブ四月

莖ノ高サ三四尺葉互ニ生シ梢ヲヨビ葉間ニ花ヲ

開ク莖ノ先ニ青苞ヲ結び下垂シ漸々開ニシタガ

ツテ仰テ苞ヲ脱ス其花ハ四瓣ニツハ大二ツハ小

中央ニ實アリ豐ノ形ノ如ク上ニ菊紋ノ蓋アリ蕊

ハ豐ノ周リニアリ開テ一日ニシテ花瓣蕊トモニ

脱落シ 疊漸尋大ニナリ 内ニ小子多アリ 花色ハ一
 様ナラス 紅白紫色或ハ白クシテ 紅邊或ハ紫ニシ
 テ 紅邊圓形ノ 瓣アリ 鋸齒狀ノ 瓣アリ 千葉ナル者
 ハ 開テ 二三日 落ス 外ノ 四瓣ハ 大ニシテ 内ニ 小ナ
 ル 瓣數多アリ 色モ マク一ナラス シテ 尤モ 美ナリ
 單葉ノモノハ 疊肥テ 子多シ 千葉ノモノハ 疊瘠テ
 長クシテ 子小ナシ 一種「七ナゲシ」一名「ビジンサウ」
 同時ニ種チ マク 苗葉共ニ 小クシテ 白色チチブ 高
 サ一尺許 同時花チ 開ク 形同クシテ 光アリ 單葉千
 葉ノモノアリテ 美ナリ コレチ 麗春花ト云 時人誤
 テ 千葉ノ 疊粟ト大ルハ 非ナリ 一名 虞美人 コレ皆
 其名チ 美ニシテ 贊ナリ 抑皇國從來 阿片チ 收製ル
 コト一ナラズ 疊實ノ 青キ時ニ 午後竹針チ 以テ十
 數眼チ 刺シ 次日 早晨ニ 其眼中ヨリ 出ルトコロノ
 精液チ 竹刀ニテ 刮取り 瓷器内ニ 收メ 貯ヘ 紙チ 將
 テ 封固シ 二七日 曝シ 阿片トナス 又 瓷器ニ 收メス
 シテ 陰乾スル 法アリ 又 生ノ 殼ヲツキ 爛カシ 水ニ
 テ 煎シ 搾リ 滓チ 去リ 慢火ニテ 熬ツメ 膏ノ如クシ

葉ノモノアリテ 美ナリ コレチ 麗春花ト云 時人誤
 テ 千葉ノ 疊粟ト大ルハ 非ナリ 一名 虞美人 コレ皆
 其名チ 美ニシテ 贊ナリ 抑皇國從來 阿片チ 收製ル
 コト一ナラズ 疊實ノ 青キ時ニ 午後竹針チ 以テ十
 數眼チ 刺シ 次日 早晨ニ 其眼中ヨリ 出ルトコロノ
 精液チ 竹刀ニテ 刮取り 瓷器内ニ 收メ 貯ヘ 紙チ 將
 テ 封固シ 二七日 曝シ 阿片トナス 又 瓷器ニ 收メス
 シテ 陰乾スル 法アリ 又 生ノ 殼ヲツキ 爛カシ 水ニ
 テ 煎シ 搾リ 滓チ 去リ 慢火ニテ 熬ツメ 膏ノ如クシ

炒いり黒くろノ五ご倍ばい子こヲ入いレ入和わシテ餅もちトナシ陰かげ乾かんスル
 法ほうアリ又また五ご倍ばい子こヲ入いレ入ス滓かすヲ去さズ煎せんシ熬あう膏こうノ如ごと
 クスル法ほうアリ又また壘れい粟ぼノ生なま汁じゅう液えきヲ米こめノ粉こなニ和あシタ
 ル者ものアリ此こノ如ごとク製せい法ぽう同どう一いつナラズ依よテ本ほん條てうニ譯やく
 述あスル處ところノ説せつヲ用もちヒテ手てヲ收しゆ製せいルニシクハナシ
 若もシ他たノ混ま交じり物ものアル片せ對たい症しやう不ふ後ごノ藥やく法ぽうヲアトフ
 ルト雖いへどモ經けい量りやう毫ご厘りんノ失あ差さアルトキハ誤あルニ千せん里り
 ヲ以もちテス其その人ひとヲ傷いた害めルコト刃はチ以もちテスルニ均をシ
 豈あんご顧ご慮ごザル可べケンヤ方かた今いま司し藥やく場ばヲ設たラレ設ラレ設ラレ設ニニ藥やく

ナ用もちユルヲ許ゆるサス故ゆゑニ人ひと々ごと實じつ學がくニ志こゝろシ正ただ路ちよみちニ就つ
 キ牽ひ強つ附つ會けいノ説せつヲナサス價い品せ偽いつはり造つくハ醫い家か之のチ病びやう
 者ひとニ與あヘス商あ戸ま之のチ市いち街まちニ賣うザルハ明あ世よノ美よ舉き
 天下てんか億おほ兆せうノ人ひとヲシテ天てん年ねんヲ終おヘ終壽じゆう域ぎよくニ躋あラシム
 ル豈あんご鴻こう澤たくニ非あザルヲ得えンヤ

苜蓿らうと

効分

アトロパベルラトフナ

亞篤路比涅

〔苜蓿〕

ハ根葉共ニ峻功アリ古來阿片ト同効トス近

ハ峻功アリ

古來阿片ト

同効トス

近

來其効用ノ異ナルコトヲ發明セシト雖也總テ此
ノ如キ類似ノ藥品ハ能ク心ヲ潛テ區分ヲ辨明ス
ベシ

〔健體作用〕ヤマヒナキ人ニ小量乃至三分ノ一

分氏ノ一ノ量ヲ與フルトキハ敢テ瞑眩ノ候ナシ

三分ノ二ヲ與ルトキハ口咽乾燥瞳孔散大シ脈

始ハ沈遲シテ後チ數ニ變ルニ隨テ瞳精侵々開大

〔中量〕根莖共又須更ニシテ諸症掃ガ如ク頓ニ去ル

スレトモ又須更ニシテ諸症掃ガ如ク頓ニ去ル

中「アトロヒ子」チ二十分氏ノ一ヲ試ニ頓服セシム

ルニ數分時ニシテ咽喉乾燥甚シク十五分時ニシ

テ瞳神開大シ三十分時ニ至テ散大尤モ増シ脈度

減却シテ十五搏二度ヲ常套トス七十トナリマダ

脈候轉テ駭然百搏ニ至ルニ從テ頭暈目眩四肢倦

怠精神興奮シ忿怒易ク須更ニシテ諸症盡ク除ト

〔大量〕アトロヒ子ノ開散ハ三日ヲ經テ瘥安ス

重シ瞳孔モマダ甚シク散開シ虹彩膜廓細コト系

ノ如ク視物明ラス或ハ異狀物ヲ見ル「アコモ」タチ
シキトキハ量厥ス
シテ「適宜」ノ機關モ守チ失シ心神耗敗言語錯亂甚
シキトキハ量厥ス

〔中毒量〕アトロヒ子前大量ノ候ヨリ感動尤モ劇甚ニ

シテ「神思」胃味狂亂死ニ瀕テ痙攣ヲ發シ斃ル其候

ハ面部ノ筋攣縮急強ク或ハ穀道ノ括約筋麻痺テ

大便禁チ失ス

〔醫事効用〕「ママヒアル」人諸説紛然トシテ未ダ一ニ定

ラス然リト雖モ採ルベキ一説チ爰ニ舉グ此効力

ハ先ニ知覺神經ノ末梢チ麻痺セル故ニ外部ノ痛
チ止テノチ中樞ニ靡及スヘキ痛苦モ止ルコトヲ
主ドル

〔一〕「莨菪」ハ總テ「ヒヘル」アチステ「ミ」知覺ニ用ユ此

症ハ知覺機亢進スルニ依テ渺微ノ刺戟ニ觸ルト

モ痛チ起シ易キモノ、チ主ドル其他知覺機亢進ス

ル者ニハ皆與フヘシ

〔二〕「ヒスチユウアン」ハ即チ痔瘻及ビ括約筋ノ劇ク

收縮テ痛チ發スル者ナリ佐薬トシテ與フ又臨産

子宮ノ收縮甚シキ者ニ佐薬トシテ與フ又喉頭ノ
 氣管ニ刺戟ノ憂アリテ咳嗽ヲ發スル者ヲ主ドル
 此理ニ原ヅヒテ喉頭諸筋ノ收縮ニ依テ發スル咳
 嗽百日咳喘息等ニ與フ
 癩癩ヲ治ス反射機能ニ依テ發スル者ニ最モ効
 驗アリ又妊娠及ビ「ヒヘステリ」ノ嘔吐ニ用レド
 モ其効力ハ判然セス或ハ胆石病ニ依テ起ル處ノ
 腸痛ニ用テ痛ヲ鎮定ルヲ主ドル
 眼科ニ於テ「アトロヒ子」ハ診察使用ニ缺ベカズ

〔四〕
 〔三〕
 ザル薬ナリ是ヲ用テ瞳睛ヲ開大シテ眼球内ヲ驗
 察ニ易カラシム又「アコモ」ヲ適宜ノ働キヲ
 止テ其眼宮ニ固有スル光線ノ屈折ノミヲ驗知ス
 ルニ用ユ

〔五〕
 虹彩炎結膜炎等ヲ治ス主的ノ薬ナリ特ニ角膜
 ニ瘍ヲ生シ潰テ濃汁流泄シ虹彩ノ突出ントスル
 ナ防グニ用ヒテ効驗ノ峻ナルハ虹彩ヲ收縮ル故
 ナリ

○ 葇若製劑ナラビニ皇國支那ノ說ハ第三號ニ

載ス

第一號誤正

○緒言九行ノスハナノ誤リ○四葉ノ表ノ二行ノ沈
ハ枕ノ誤リ○八葉ノ表ノ四行ノ明ハ用ノ誤リ○
十葉ノ表ノ二行ノ月ハ片ノ倒字ナリ

社長 芝大助

纂輯長 松本操

印刷人 三邨俊厖

東京第四大區六小區池之端仲町廿三番地

錦袋圖 勸學寮内

發賣所 櫻南社

毎月六回發兌一冊定價金五錢○一ヶ月分前金二十七錢○三ヶ月分前金
七十七錢○東京府内配達ハ郵便税不申受府外ハ郵便税申受候

賣 捌 所

東京銀座二丁目壹番地	精崎水本舗	岸田吟香
東京通り油町七番地	金銀針問屋	池田藤兵衛
中仙道鴻ノ巢驛	書肆	長島爲一郎
東京上野元黒門町廿六番地賣藥調製所	濟世堂	

○今般第一號發兌仕候處文體ニ拘テニ少年輩ニモ
 讀易キ様フリガナ仕ベク旨諸君ヨリ御懇切ニ仰
 セ下サレ社長始メ一同難有厚ク御禮申上候今第
 二號ヨリ仰セ下サレ候通ニ改正仕候間尙御註文
 ノホド伏テ奉願候頓首